

第2回「市長と語ろう会」（タウンミーティング）の記録

平成23年11月10日（木）から11月12日（土）にかけて、「市長と語ろう会」（タウンミーティング）を4回実施いたしました。

そのときの質疑を中心とした記録を掲載いたします。掲載にあたりまして、次のような方法でまとめましたことを、ご了解願います。

- ①市長のあいさつと防災安全課長の説明内容は省略しております。
- ②質疑・回答内容につきましては、**市民**、**市長**、**職員** と表現し、発言の内容を簡略化しております。また、趣旨が変わらない範囲で言い回しや表現を変えております。
- ③一部、個別な内容の質問項目を省略しております。

④狭山公民館 11月12日（土） 午後7時から

市民：タウンミーティングを開催してもらって有り難い。自治会に入らないと助けが来ないと聞いたがどうなのか。資料P14、15の備蓄状況は市内全部合わせたものか、また市民全員分あるのか。

市長：自治会に入らないと助けが来ないということは無いが、いざという時に近所の方が助けあうということもあるので、できれば自治会に入ってもらい、地域の方とお知り合いになったほうが良いと考える。

職員：備蓄数は市内全域の総数である。市民全員分の1、2日分の食料を備蓄するのは膨大な量になり、難しいと思う。各家庭で備蓄をして欲しい。広域的な支援が来るまで、家庭で備蓄してもらっているものと市で備蓄しているもので繋いでいくことで対応していくのが現在の考えである。

市民：市で耐震工事をあまりしていないようだが、高齢者の方の住宅については補助金の額を上げるなど、積極的に耐震工事を進めてほしい。

市長：市が個人の住宅の耐震工事をすることについては難しい。

職員：耐震工事は大規模な改修をとまなうことが多いため、個人の負担が大きいので広まっていない。補助制度については担当課と相談しなくてはならないので、意見があったことを伝えたい。

市民：市役所職員の履物について、サンダルを履いている職員がいるが、災害時に自分が避難する際や、避難誘導を行う際に危険だと思う。市内の学校の教職員にも徹底して欲しい。

職員：怪我で靴を履けない場合を除き、基本的にサンダルは認めていない。運動靴は業務によって必要な場合があるので認めている。教職員に対しては状況がわからないので、教育委員会に報告して対応してもらおう。

市民：備蓄コンテナについて、発電機というものがあるが、燃料が不足した場合使えなくなってしまうのではないか。蓄電池等も備蓄していったほうが良いのではないか。

職員：現在の発電機は混合ガソリンで稼働させるものであるが、ガソリンは大量に保管できないデメリットもある。蓄電池等による発電方法についても検討していきたい。

市民：避難所になっている学校で、授業を行っている時間帯に学校と地域合同の防災訓練を行ってほしい。また、一中では防災学習をやっているが、他の学校でもやってほしい。

市長：避難マニュアルについては、市と学校でそれぞれ独自のものを持っているが、有事の際に機能できるように今後、整合性をとっていきたい。

職員：平日の昼間に地震が起きた際の問題として帰宅困難者の問題がある。現在、都では帰宅困難者となった場合、帰宅せず職場等に待機してもらうようにしている。企業に対しても、会社に残る社員のために備蓄を進めるようにしている。学校においても親が引き取りに来られない小中学生を自宅に帰せるかという問題がでてくる。そうした場合、学校で一定期間、児童・生徒を預かることになると思う。これは帰宅困難者の問題と表裏一体で、学校に残っている生徒と避難してきた市民の共存などの問題は今回の震災の教訓・課題であり、今後考えていかななくてはならない問題である。

市民：職員行動のマニュアルの改訂について、3月11日に地震が起きたときは公民館で活動していたが、職員の避難誘導が無かった。地域の防災も大切だが、災害時の職員行動についても、適切に動いてほしい。

市長：災害時の職員の行動についても、防災訓練等を通し、適切に動けるよう指導していきたい。